

内分泌腺		ホルモンの種類	おもなはたらき
視床下部		放出ホルモン	脳下垂体ホルモンの分泌促進
脳下垂体	前葉	成長ホルモン	成長促進、血糖量増加
		副腎皮質刺激ホルモン	糖質コルチコイドの分泌促進
		甲状腺刺激ホルモン	チロキシンの分泌促進
		生殖腺刺激ホルモン	濾胞・黄体ホルモンの分泌促進 精子形成の促進
後葉	バソプレシン (抗利尿ホルモン)	腎臓の集合管における水分の再吸収促進	
	オキシトシン (子宮収縮ホルモン)	妊娠時に子宮平滑筋の収縮促進。乳汁分泌。	
甲状腺		チロキシン	物質交代促進
副甲状腺		パラトルモン	血液中のカルシウム濃度の増加
膵臓	A細胞(α細胞)	グルカゴン	血糖量増加
	B細胞(β細胞)	インスリン	血糖量減少
副腎	髄質	アドレナリン	血糖量増加
	皮質	糖質コルチコイド 鉱質コルチコイド (アルドステロン)	血糖量増加(タンパク質の糖化促進) 腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収促進
生殖腺	精巣	雄性ホルモン (アンドロゲン)	雄性二次性徴発現、雄の性機能を高める。
		濾胞ホルモン (エストロゲン)	雌性二次性徴発現、雌の性機能を高める。
	卵巣	黄体ホルモン (プロゲステロン)	妊娠の継続、排卵抑制、乳腺の発育。
胃壁		ガストリン	胃液分泌促進
十二指腸		セクレチン	膵液の分泌促進

### (b) 尿路(膀胱、尿道)

左右の腎臓と膀胱は尿管でつながっており、腎臓から膀胱を経て尿道に至る尿の通り道を尿路という。尿のほとんどは水分で、尿素、尿酸等の老廃物、その他微量の電解質、ホルモン等を含む。尿は血液が濾過されて作られるため、糞便とは異なり、健康な状態であれば細菌等の微生物は存在しない。

#### ① 膀胱

下腹部の中央に位置し、尿を一時的に溜める袋状の器官である。尿が膀胱に溜まってくると刺激が脳に伝わって尿意が生じる。膀胱の出口にある膀胱括約筋が緩むと、同時に膀胱壁の排尿筋が収縮し、尿が尿道へと押し出される。容量は、成人で300～500 mL位である。

#### ② 尿道

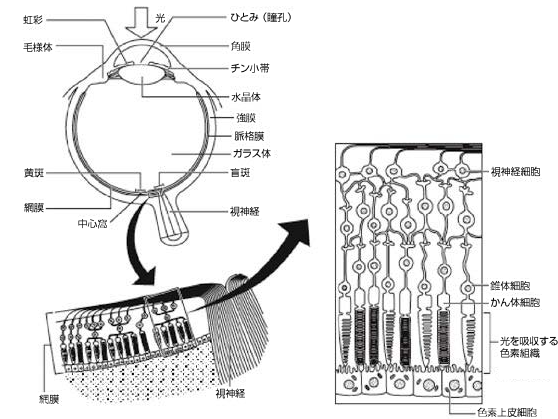
膀胱に溜まった尿が体外に排泄されるときに通る管である。尿管の長さは、男性では約17cmであるのに対して、女性では約4cmと短いため、細菌などが侵入したとき膀胱まで感染を生じやすい。高齢者では、膀胱や尿道の括約筋の働きによって排尿を制御する機能が低下し、また、膀胱の容量が小さくなるため、尿失禁を起こしやすくなる。また、男性では、膀胱の真下に尿道を取り囲むように前立腺がある。加齢とともに前立腺が肥大し、尿道を圧迫して排尿困難等を生じることがある。

## 2 目、鼻、耳などの感覚器官

外界における種々の現象を刺激として、脳に伝えるための器官である。可視光線を感じる視覚器(目)、空気中を漂う物質の刺激を感じる嗅覚器(鼻)、音を感じる聴覚器(耳)等、それぞれの感覚器は、その対象とする特定の感覚情報を捉えるため独自の機能を持っており、他の器官ではそれらを感じとれない。また、各感覚器は外気と直接触れる状態にあり、病原物質、アレルゲン等の様々な異物に曝されている部分でもある。

### 1) 目

視覚情報の受容器官で、明暗、色及びそれらの位置、時間的な変化(動き)を感じとる眼球と、眼瞼、結膜、涙器、眼筋等からなる。顔面の左右に1対あり、物体の遠近感を認識することができる。



ヒトの眼球の構造

#### (a) 眼球

頭蓋骨のくぼみ(眼窩)に収まっている球形の器官で、外側は、正面前方付近(黒目の部分)のみ透明な角膜が覆い、その他の部分は強膜という乳白色の比較的丈夫な結合組織が覆っている。紫外線を含む光に長時間曝されると、角膜の上皮に損傷を生じることがある(雪盲炎、雪目ともいう)。

角膜と水晶体の間は、組織液(房水)で満たされ、角膜に一定の圧(眼圧)を生じさせている。透明な角膜や水晶体には血管が通っておらず、房水によって栄養分や酸素が供給される。水晶体の前には虹彩があり、瞳孔を散大・縮小させて眼球内に入る光の量を調節している。虹彩は交感神経の支配を受ける瞳孔散大筋と、副交感神経の支配を受ける瞳孔括約筋から構成され、光の強さに応じて瞳孔の大きさを変化させている。水晶体から網膜までの眼球内は、硝子体という透明のゼリー状組織で満たされている。(硝子体液はヒyaluron酸を含む)

角膜に射し込んだ光は、角膜、房水、水晶体、硝子体(ガラス体)を透過しながら屈折して網膜に焦点を結ぶが、主に水晶体の厚みを変化させることによって、遠近の焦点調節が行われている。水晶体

## 【代表的な市販薬】セルベール（エーザイ）

成分	作用
テフレンオン	胃の粘液量を増大させ、胃粘膜を守る。
ソウジュツ乾燥エキス (原生薬としてソウジュツ)	胃の働きを高め、胃もたれなどの自覚症状を緩和する。
コウボク乾燥エキス (原生薬としてコウボク)	



## ⑦塩酸セトラキサート(セトラキサート塩酸塩)

胃粘膜のプロスタグランジン量を増加させ、粘膜血流量や粘液分泌の増加作用、胃粘膜微小循環改善作用を示す。また、粘膜内でのペプシノーゲン活性化抑制・生成抑制、胃液分泌抑制等の攻撃因子抑制作用も併せもつ。また、細胞が生まれ変わるのを早めて傷の修復を促進する作用を有する。

体内で代謝されてトラネキサム酸(I-1(かぜ薬)参照)を生じることから、血栓のある人、血栓を起こすおそれのある人では、生じた血栓が分解されにくくなることが考えられるので、使用する前にその適否につき、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談することが望ましい。

## 【代表的な市販薬】新センロック錠（第一三共ヘルスケア）

成分	作用
塩酸セトラキサート	胃粘膜の血流を増やして、荒れた胃粘膜を修復する。
沈降炭酸カルシウム	出すぎた胃酸を中和し、胃の不快感を和らげる。
水酸化マグネシウム	
ロートエキス3倍散	胃の痛みや痙攣を鎮め、胃液分泌も抑制する。



## ⑧銅クロロフィリンカリウム

葉緑素であるクロロフィルを原料に半合成した製剤である。肉芽形成促進作用により、潰瘍部を修復する。また、胃粘膜の形成を促進させる作用がある。銅クロロフィリンカリウムは緑色の粉末のため、服用後、緑色の便が排泄されることがある。

## 【代表的な市販薬】サクロン（エーザイ）

成分	作用
銅クロロフィリンカリウム	胃粘膜の修復・保護
無水リン酸水素カルシウム	制酸作用
沈降炭酸カルシウム	
水酸化マグネシウム	胃酸分泌抑制
ロートエキス3倍散	



## ⑨銅クロロフィリンナトリウム

胃液中のペプシン活性を抑制し、肉芽形成促進作用により、潰瘍部を修復する。また、胃粘膜の形成を促進させる作用がある。銅クロロフィリンナトリウムは、青黒～緑黒色の粉末である。

## ⑩メチルメチオニンスルホニウムクロライド

胃粘膜組織ムコ多糖成分の分解を防止するとされる。また、胃粘膜を修復する作用も有する。

## 【代表的な市販薬】キャベジンコーワ錠（興和新薬）

成分	作用
メチルメチオニンスルホニウムクロライド	胃粘膜の修理
合成ヒドロタルサイト	
炭酸水素ナトリウム	
メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	
ロートエキス3倍散	制酸作用
ホップ乾燥エキス-S	
センブリ末	健胃作用
ピオチアスターゼ2000	消化作用



## 【生薬成分】

## ①アカメガシワ(赤芽柏)

トウダイグサ科のアカメガシワの樹皮を用いた生薬で、主成分としてタンニンのゲラニンやベルゲニンが含まれている。民間薬として胃潰瘍や胆石症の治療に用いられ、胃液分泌抑制作用が認められている。

## (e)胃粘膜の炎症を和らげる成分(抗炎症成分)

胃粘膜の炎症を和らげることを目的とする薬。グリチルリチン酸を含む成分、又は生薬成分としてカンゾウが配合されている場合がある。

一般的に抗炎症薬として使用されるステロイド性抗炎症薬(プレドニゾンなど)や酸性非ステロイド性抗炎症薬(アスピリン、インドメタシンなど)は、胃粘膜のプロスタグランジン産生を抑制するので胃酸分泌が促進し、胃粘液の分泌が減少して消化性潰瘍を引き起こしやすくなる。従って、胃粘膜の炎症を和らげる目的としては使用することができないので注意する。

カンゾウに含まれるグリチルリチン酸は、抗アレルギー作用広く漢方処方製剤に配合されるのでI-1(かぜ薬)、II-1(咳止め・痰を出しやすくする薬)を参照のこと。

## ①グリチルリチン酸二カリウム

グリチルリチン酸が作用本体として働く。化学構造がステロイド性抗炎症成分に類似していることから抗炎症作用を示すと考えられている。

高齢者、むくみ、心臓病、腎臓病、高血圧の診断を受けた人は、偽アルドステロン症を発症するリスクが高いとされているため、1日最大用量がグリチルリチン酸として40mg以上となる製品の使用に際し、医師などに相談するなどして、使用の適否を十分に注意する必要がある。また、使用する場合には初期症状に常に注意を払う必要がある。

ループ利尿薬、チアジド系利尿薬と併用すると、血中のカリウム濃度が低下することがある。したがって、使用する場合には薬剤師に相談することが望ましい。

【添付文書の実例例】

※2008年1月改訂  
服用前にこの説明書を必ずお読み下さい。  
また、必要な時に読めるよう大切に保管して下さい。

鎮咳去痰薬

【医薬品】

せき・たん・ぜんそくに……

強力アズメトン®

《強力アズメトン》は、  
のどや気管支などの炎症に伴って起こるせきだけでなく、ぜんそく発作時のせきを鎮め、たんの切れをよくする薬剤を配合した製剤です。

⚠ 使用上の注意

❌ してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります)

1. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないで下さい  
他の鎮咳去痰薬、かぜ薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬（鼻炎用内服薬、東物酔い薬、アレルギー用薬）、鎮静薬
2. 服用後、薬物又は機械類の運転操作をしないで下さい  
(眠気があらわれることがあります。)
3. 授乳中の人には本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けて下さい

🗨️ 相談すること

1. 次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談して下さい
  - (1) 医師の治療を受けている人
  - (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人
  - ※(3) 発熱している小児
  - ※(4) けいれんを起こしたことがある小児
  - (5) 高齢者
  - (6) 本人又は家族がアレルギー体質の人
  - (7) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人
  - (8) 次の症状のある人  
高熱、排尿困難
  - (9) 次の診断を受けた人  
心臓病、高血圧、糖尿病、緑内障、甲状腺機能障害
2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師又は薬剤師に相談して下さい
  - (1) 服用後、次の症状があらわれた場合



関係部位	症 状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	悪心・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい
その他	動悸、排尿困難

  - (2) 5～6回服用しても症状がよくならない場合
3. 次の症状があらわれることがありますので、このような症状の継続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、医師又は薬剤師に相談して下さい  
口のかわき

■ 効能・効果

せき、たん、ぜんそく

■ 用法・用量

年 齢	1回服用量	1日服用回数
15 歳 以 上	2カプセル 	3回
8 歳以上15 歳未満	1カプセル 	
8 歳 未 満	服用しないで下さい	

〈用法・用量に関連する注意〉

1. 用法・用量を厳守して下さい。
2. 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させて下さい。

T04

→1) 改訂年月日

→2) 添付文書の必読及び保管に関する事項

→3) 販売名及び薬効名

→4) 製品の特徴

→5) 使用上の注意

→ してはいけないこと

→ 相談すること (医薬品の使用前)

→ 相談すること (医薬品の使用后)

→6) 効能または効果

→7) 用法及び用量

■ 成 分

《強力アズメトン》は、「AS」の文字を印刷した白色の硬カプセル剤で、中に白色～微黄色の粒を含む粉末をつめてあります。6カプセル中に次の成分を含んでいます。

成 分	含 量 (6カプセル中)	作 用
塩酸メキシフェナミン	75mg	気管支の痙攣を抑え、ぜんそく発作時のせきを鎮めます。たんの切れをよくします。
ノスカピン	42mg	せきを抑えます。
アミノフィリン水和物	150mg	気管支の痙攣を抑え、気管支粘膜の腫脹を抑え、ぜんそく発作時のせきを鎮めます。たんの切れをよくします。
クロルフェニラミンマレイン酸塩	12mg	上気道炎に伴うせきを鎮めます。

添加物：酸化Mg、メタケイ酸アルミン酸Mg、ステアリン酸Mg、ゼラチン、亜硫酸水素Na、ラウリル硫酸Na、酸化チタン

■ 保管及び取扱い上の注意

1. 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に密栓して保管して下さい。
2. 小児の手の届かない所に保管して下さい。
3. 他の容器に入れ替えないで下さい(誤用の原因になったり品質が変わります。)
4. 使用期限を過ぎた製品は使用しないで下さい。

本品についてのお問い合わせは、お買い求めの薬局・薬店又は下記にお願ひ致します。  
第一三共ヘルスケア株式会社 お客様相談室  
〒103-8541 東京都中央区日本橋小網町1-8  
電 話 03(6667)3232  
受付時間 9:00~17:00 (土、日、祝日を除く)

<http://www.daiichisankyo-hc.co.jp/>

T04 (9) 登録商標



→8) 成分及び分量

→10) 保管及び取り扱い上の注意

→11) 消費者相談窓口

→12) 製造販売業者の名称及び所在地

1) 改訂年月

一般用医薬品を含めて、医薬品の添付文書の内容は変わらないものではなく、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、必要に応じて随時改訂がなされている。特に重要な内容が変更した場合には、改訂年月を記載するとともに改訂された箇所を明示することとされており、以前からその医薬品を使用している人が、添付文書の変更箇所を注意を払うことができるようになっている。

2) 添付文書の必読及び保管に関する事項

添付文書の販売名の上部に、[例]のような文言が記載されている。

添付文書は開封時に一度目を通されれば十分というのではなく、実際に使用する人やその時の状態等によって留意されるべき事項が異なってくるため、必要な時にいつでも取り出して読むことができるように保管される必要がある。

販売時に専門家から直接、情報提供を受けた購入者以外の家族等がその医薬品を使用する際には、添付文書に目を通し、使用上の注意等に留意して適正に使用されることが特に重要である。

また、一般医薬品を使用した人が医療機関を受診する際にも、添付文書を持参し、医師や薬剤師に見せて相談することが重要である。